

理想の開業を叶える クリニックビルで スタートしませんか？

内科の開院を心待ちにされている
患者さんが多くいらっしゃいます

医療施設とオフィスの総合ビル
東大阪Mビル

- 【1階】クオール薬局 整形外科・皮膚科 【3階】【募集区画】
【2階】耳鼻咽喉科 【募集区画】 【4階】乳腺外科

【募集区画】

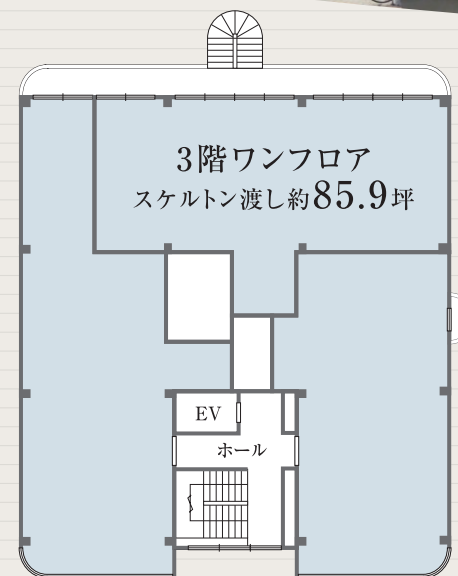
2階A号室 ・約54.5坪



【募集区画】

3階ワンフロア

・約85.9坪
(分割相談可)



エレベーター設置

患者様専用駐車場(13台)

周辺は人口密集地…地域での認知度は高い

4階セミナールーム有り…各種セミナーにご利用いただけます

フリーレントその他、条件相談に乗ります

- 名 称 : 東大阪Mビル
- 場 所 : 東大阪市新家西町8-23
- 交 通 : 大阪メトロ中央線「長田」駅 徒歩8分
- 募 集 科 目 : 整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・乳腺外科を除く全科目

開業・運営にあたり、様々なサポート体制が充実しています。
詳しくはお気軽にお問い合わせください。



お問い合わせ先

不動産のアドバイザー
株式会社フジモト産業
東大阪Mビル運営管理

宅建免許番号/大阪府知事(12)第20316号 (公社)全日本不動産協会会員 (公社)不動産保証協会会員

TEL 06-6762-0005

大阪市天王寺区玉造本町4番3号
<https://www.fujimoto5.co.jp> Email: info@fujimoto5.co.jp

東大阪MビルHP
テナント募集



フジモト産業HP



テナント
募集

大阪医科薬科大学 仁泉会 ニュース

仁泉会ニュース 第56巻第4号

発行所

〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX

072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数

安藤嗣彦 6,300部

URL

<http://www.jinsenkai.net>

壮健に過ぎる夏。



大阪医科薬科大学仁泉会
会員各位

学校法人大阪医科薬科大学

大阪医科薬科大学仁泉会

医学部ホームカミングデー 開催日延期のお知らせ

平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

この度、予定しておりました「医学部ホームカミングデー」につきまして、諸般の事情により開催を延期する運びとなりました。楽しみにして下さっていた皆様にはご迷惑をおかけしますこととなり、深くお詫び申し上げます。

●変更前

開催日時：令和7年10月5日（日曜日）午前11時00分開始

●変更後

未定（決まり次第ご案内申し上げます）

なお、新しい開催日程につきましては現在調整中で、決まりましたら改めてご案内申し上げます。

皆様にご満足いただけるよう、より良いイベントの準備を進めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

【お問い合わせ先】

学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部

電話：072-684-7243

E-mail：kikin@ompu.ac.jp

一般社団法人大阪医科薬科大学仁泉会

電話：072-682-6166

E-mal：info@jinsenkai.net

目次

P4	（一社）大阪医科薬科大学仁泉会 理事長就任ご挨拶	上野 豊	（学27期）
P5	祝・ご就任 大阪医科薬科大学医学部 内科学Ⅲ教室教授	森田英晃先生	（学44期）
P6	祝・ご就任 大阪医科薬科大学医学部 泌尿生殖・発達医学講座 産婦人科学教室教授	田中智人先生	（学52期）
P7	祝・ご就任 大阪医科薬科大学医学部 生体管理再建医学講座 形成外科学教室教授	塗 隆志先生	（学52期）

表彰報告

P8	大阪府知事表彰	石村俊信先生	（学22期）
----	---------	--------	--------

祝・入学 令和7年度大阪医科薬科大学入学宣誓式

P9	学長式辞	大阪医科薬科大学学長 佐野浩一	
----	------	--------------------	--

支部だより

P11	京都仁泉会 令和7年度総会報告	森本博子	（学24期）
P13	令和7年度 仁泉会大阪府支部連合会 支部長会および学術講演会報告		
P16	仁泉会港・大正合同支部懇親会	奥村隆司	（学31期）
P17	令和7年度仁泉会神戸支部 支部総会報告	藤田能久	（学47期）
P18	仁泉会姫路（播州会）支部総会・懇親会 開催報告	吉田悌三郎	（学27期）

クラス会だより

P19	令和7年度 学14期（昭和40年卒）36会同窓会報告	島田眞久	（学14期）
P20	2025年2月 第53期同窓会開催（2回目）のご報告	かわしげクリニック 川茂聖哉	（学53期）
P21	大阪医科薬科大学 昭和47年卒業 学21期同窓会開催のご案内 大阪医科薬科大学 昭和57年卒業 学31期同窓会開催のお知らせ（第2報）		

仁泉ひろば

P22	食中毒を来す毒魚の話	岡野 准	（学21期）
P23	医療機関経営の危機的状況の改善に向けて	茂松茂人	（学27期）

青の仁泉

P24	学生で医学生理学クイズ日本大会 2025 （PQJ 2025）開催報告	大阪医科薬科大学 貴田光香子	（医学部4年）
P27	冊子切抜	河野恵美子先生	
P28	会員著書	井尻慎一郎	（学31期）
P30	会員著書	高 富栄先生（共同執筆）	（学47期）
P31	まんが第74回	桂ぼん太郎内閣	（学31期）

開業情報

P32	開業しました！	岩崎善毅先生	（学35期）
-----	---------	--------	--------

追悼

P34	植林 勇 放射線医学教室 名誉教授への御誄	上杉康夫	（学34期）
-----	-----------------------	------	--------

本部だより

P36	会員計報		
P37	理事会開催報告		
P38	ラジオ出演情報 編集後記		

(一社)大阪医科薬科大学 仁泉会 理事長就任ご挨拶

学27期 上野 豊



会員諸先生方におかれましては、平素より大阪医科薬科大学仁泉会の運営にご協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

令和7年5月25日の総会後の臨時理事会におきまして、私が、安藤嗣彦先生の後任として仁泉会理事長に選任・選定されました。

仁泉会は、会員5500人余りを要する伝統と歴史のある同窓会であり、日本各地で同窓生が活躍しておられます。その仁泉会の理事長に就任するということは、非常な名誉であるとともにその責任の重さをひしひしと感じます。

私は、平成15年5月に仁泉会大阪支部連合会の理事に就任。その後、平成24年5月に仁泉会本部の理事に就任。以後、若林、河野両理事長の下で理事を務め、平成30年6月より安藤理事長の下で副理事長として仕事をまいりました。その間、同窓会の役割というものがあるということをご理解をいただき、全国的に各支部の再構築と結束の強化、加えて親睦、懇親を含めた情報交換の場となること、第二には、母校の学生に対する経済的な支援をすることが主な役割であるということです。

現在、我々開業医や勤務医など医療従事者を取り巻く環境は、深刻な状況であります。長年続く医療費抑制政策などにより国民の健康を保持し、増進させるということが困難になりつつあります。そんな状況の中で、仁泉会会員相互の親睦、結束を固めるためには、河野元理事長が行ってこられた各支部の活性化は重要な要因になります。特に、若い先生方の都道府県、群市区の支部における総会などの行事への出席率を高めること、また、いかにして会費の納入率を上げるかが急務ではないかと考えます。

また、学内の教授をはじめとする各講座内の先生方が主催される学会への援助、西医体に参加する学生への援助、そして仁泉会基金による学生の奨学金貸与も重要な事業であります。経済的に窮地に立たされている優秀な学生への奨学金貸与は大きな事業であり、将来医療界に貢献したり、地域医療を担って活躍してくれるであろう人材への援助は大きな価値を持つものであります。しかし、今述べたようなことを実行していくためには、仁泉会の入会率、会費納入率を引き上げねばなりません。その一環として、仁泉会では平成30年より新入生を対象とした学生会員を創設しました。この制度により、新入生が、毎年全学生会員になっていただき、仁泉会の活動を理解し、将来仁泉会を支える人材になっていただきたいと考えております。

仁泉会の事業は、会員の皆様のご支援、ご協力がなければ成り立ちません。どうぞ、今後とも会員の皆様におかれましては、仁泉会の活動をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の就任のご挨拶とさせていただきます。



祝・ご就任 大阪医科薬科大学医学部 内科学Ⅲ教室教授 森田英晃先生(学44期)

ご挨拶

文責／森田英晃（学44期）

仁泉会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、2025年4月1日付で、母校内科学講座内科学Ⅲ教室の教授を拝命いたしました森田英晃と申します。

伝統ある内科学Ⅲ教室教授という重責を担うにあたり、身の引き締まる思いとともに、その責任の重さを痛感しております。

私は1989年に大阪医科大学に入学し、学生時代は硬式庭球部に所属して体力・精神力・忍耐力を鍛えるとともに、充実した学生生活を送らせていただきました。

1995年の卒業後は、河村慧一郎教授の主宰されていた第三内科に入局し、循環器内科学を中心とした臨床業務に励んでまいりました。当時は、心臓カテーテル治療の黎明期であり、低侵襲血管内治療の重要性を肌で感じたことをよく覚えております。

1999年から米国ミシガン州ヘンリーフォード病院で、イス心不全モデルを用いた基礎研究に従事し、薬剤の心保護効果のメカニズム解明、新規医療機器の開発を行ってまいりました。帰国後は冠動脈インターベンションの専門医を育成し、三島医療圏における急性心筋梗塞患者の受け入れ体制の整備を進めました。また、心臓血管外科と連携し、診療科の垣根を超えたハートチームの中核として、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)の導入に尽力いたしました。

内科学Ⅲ教室は、これまで多くの優れた臨床医・研究者を輩出し、本学の内科教育や地域医療の要を担ってまいりました。この伝統を受け継ぎつつ、新しい時代にふさわしい教室運営を目指してまいります。特に、心血管救急に対する迅速かつ安全な診療体制の構築、心不全や動脈硬化性疾患の最新治療の推進、そして



若手医師の育成に重点を置き、実践的かつ人間味ある教育を心がけてまいります。

本年7月には、待望の病院新本館がグランドオープンいたします。働き方改革や若手医師の価値観の変化が進むなか、「Stand together, Stay unique」をモットーに、個々の力を尊重しながら協働できる循環器内科医局を目指し、本学のさらなる発展に貢献してまいります。

仁泉会の皆様には、これまで教室運営や後進の育成に多大なるご支援を賜ってまいりましたことに、心より深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

森田英晃(もりた ひであき)先生ご経歴

1969年10月6日生まれ	
1995年3月	大阪医科大学 医学部医学科 卒業
1995年5月	大阪医科大学 内科学Ⅲ教室 入局 研修医
1997年6月	大阪赤十字病院心臓血管センター内科
1999年11月	米国ヘンリーフォード病院心臓血管研究所 リサーチフェロー
2003年12月	大阪医科大学医学博士 取得
2004年10月	大阪医科大学附属病院 臨床研修専任指導医
2006年4月	大阪医科大学 内科学Ⅲ教室 助手(任期付)
2007年1月	大阪医科大学 内科学Ⅲ教室 助教
2012年4月	大阪医科大学 内科学Ⅲ教室 講師(准)
2022年4月	大阪医科薬科大学 内科学Ⅲ教室 講師
2025年4月	大阪医科薬科大学 内科学Ⅲ教室 教授



祝・ご就任 大阪医科薬科大学医学部 泌尿生殖・発達医学講座 産婦人科学教室教授 田中智人先生(学52期)

ご挨拶

文責／田中智人（学52期）

大阪医科薬科大学仁泉会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2025年4月1日付で、医学部 泌尿生殖・発達医学講座 産婦人科学教室の教授を拝命いたしました田中智人です。

私は1997年に大阪医科大学に入学しました。学生時代は軽音楽部に所属し、ピアノや「ベースを弾きながら、バンド仲間と楽しく充実した学生生活を送りました。卒業後、2003年に、植木實教授主宰の本学産婦人科学教室へ入局しました。その後、大道正英先生が教授に就任され、両教授から多くのことを学ばせていただきました。当教室は、婦人科悪性腫瘍領域では歴史が長く、全国的にみてもかなり多くの症例を経験しております。その中で、婦人科癌の治療と、その病態について研究を深め、現在では、子宮癌および卵巣癌の低侵襲手術を中心に診療を行っております。我々の教室には、腫瘍・周産期・生殖・女性医学と4つの専門分野があります。子宮・卵巣という女性特有の臓器を診る特性上、各分野が綿密にかかわっており、活発な意見交換が必要になるため、風通しの良い、活気ある教室運営を心掛けたいと考えております。

近年、全国的に産婦人科医が減少し、医師の働き方改革の影響もあり、産婦人科勤務医の負担が増大しており、その中で、診療、教育、研究を行わねばなりません。教室員が助け合いながら、日々の仕事を充実させ、本学および教室の発展に貢献できるように努力いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



田中智人先生ご経歴

2003年 3月	大阪医科大学卒業
2003年 4月	大阪医科大学 産婦人科学教室 研修医
2004年10月	高槻赤十字病院 産婦人科 医員
2005年 5月	大阪医科大学 産婦人科 研修医
2006年 1月	神戸掖済会病院 産婦人科 医員
2009年 3月	大阪南医療センター 産婦人科 医員
2012年 4月	大阪医科大学大学院博士課程 入学
2016年 3月	大阪医科大学大学院博士課程 学位取得
2016年 4月	大阪医科大学 産婦人科学教室 助教
2016年10月	大阪医科大学 産婦人科学教室 講師
2025年 4月	大阪医科薬科大学 産婦人科学教室 教授



祝・ご就任 大阪医科薬科大学医学部 生体管理再建医学講座 形成外科学教室教授 塗 隆志先生(学52期)

ご挨拶

文責／塗 隆志（学52期）

2025年4月1日より、医学部生体管理再建医学講座 形成外科学教室の教授を拝命いたしました。

私は平成8年に大阪医科大学へ入学し、学生時代はスキー部に所属し、クラブ活動に熱中した日々を過ごしました。卒業後は大阪医科大学形成外科学教室に入局し、上田晃一名誉教授のもと、外傷や先天異常の治療に加え、微細な血管吻合を用いた皮弁移植手術など、幅広い領域の技術を習得しました。大阪医科薬科大学形成外科学教室は、1982年10月に初代教授・田嶋定夫先生のもと開設され、以来、形成外科の多様な疾患に対応できる高いレベルの治療を提供し続けております。私自身もこれまでの経験を生かし、広範な治療領域に対応できる後進の育成に尽力してまいります。

近年は学生の教育にも力を注いで参りました。特に令和5年以降、OSCEが国家試験として導入され、合格した学生はスチューデントドクターとして医行為が許可されるようになりました。私は基本的臨床手技のステーションリーダーとして、採血や導尿などの手技を安全に遂行できるよう指導を行っております。大阪医科大学の魅力を高める医療教育と患者様の安全をいかに両立させるかは、今後の重要な課題です。教授として、さらなる学生教育の充実を目指してまいります。

研究においては2008年に東京医科歯科大学（現・東京科学大学）分子発生学教室へ国内留学して以来、ミュータントマウスを用いた頭蓋骨の発生異常に関する研究を続けております。また、教室内においては臨床研究の指導、論文の執筆方法、研究費の獲得に関する講義も行っておりまいた。その結果、研究や論文執筆への抵抗感が薄れつつあることを実感しております。



今後の展望

まだまだ未熟ではございますが、教室員と協力しながら、諸先輩方より引き継いだ教室をさらに発展させるべく邁進する所存です。

皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

塗 隆志先生ご経歴

2003年 3月	大阪医科大学 卒業
2003年 4月	大阪医科大学形成外科学教室 入局
2005年 5月	埼玉医科大学総合医療センター病院 助手
2006年 6月	大阪医科大学形成外科学教室 助手
2008年 6月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子発生学分野 研究員
2012年 3月	大阪医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
2012年 4月	大阪医科大学形成外科学教室 助教
2014年 2月	大阪医科大学形成外科学教室 講師
2016年 1月	台湾:Chang Gung Memorial Hospital, Craniofacial Center, Visiting scholar 研究員
2016年 4月	大阪医科大学形成外科学教室 講師
2018年 4月	大阪医科大学形成外科学教室 診療准教授
2020年 4月	大阪医科大学形成外科学教室 准教授
2025年 4月	大阪医科薬科大学形成外科学教室 教授

表彰報告

下記の先生の表彰のご連絡がございました。
慶事でありますので、ご報告させていただきます。

大阪府知事表彰

石村俊信 先生（学部22期）

表彰のお言葉

この度、令和7年5月3日憲法記念日に合わせて、大阪府大正警察署警察医の活動に対して大阪府知事表彰を授与されました。

長く警察医を務めさせていただく中で、このような名誉を賜り光栄に思います。これからも常に感謝の気持ちを忘れず地域の人々の為に歩んでいきたいです。

石村俊信（学22期）



受章・受賞の際は編集部にお知らせください

各地での喜びの受章・受賞等がございましたら、事務局あてに書面、新聞などをお送り下さい。
FAX、メールでのお知らせも歓迎いたします。本誌にて広く紹介させていただきます。 編集係

仁泉会事務局 TEL / 072-682-6166 FAX / 072-682-6636
e-mail / jimu@jinsenkai.net



祝・入学

令和7年度 大阪医科薬科大学入学宣誓式

令和7年度の入学宣誓式は、令和7年4月3日（木）高槻城公園芸術文化劇場トリシマホールにて挙行され、学部80期生の112名がご入学されました。当日の佐野学長の式辞を掲載させていただきます。

学長式辞

大阪医科薬科大学学長 佐野浩一

花細し今日

令和七年度新入生
医学部112名、薬学部
308名、看護学部97名、
医学研究科37名、薬学
研究科8名、看護学研
究科10名、皆さんご入
学おめでとうございます。
保護者はじめ関係の皆
様におかれましては、本
日の入学式を迎えられましたこと、さぞお喜びのことと存じます。ご同慶の至りでございます。

また、新たな志を胸に本日入学する学生を祝い、ご参列くださいましたご来賓の皆様にご心よりお礼申し上げます。

本日の式次第に植木理事長先生から入学する皆さんへのお祝いとこれから皆さんが学ぶ大阪医科薬科大学に関する情報を含めたメッセージが添えられていますので、是非ご覧下さい。

本学は大阪医科大学と大阪薬科大学が統合され、大阪医科薬科大学となり5年目を迎えました。大阪医科大学の母体となりました梅田病院と大阪細菌研究所は先の大戦における大阪大空襲で資料が焼失し、開学前の由緒をたどることはできませんが、大阪細菌研究所の略称「ダイサイ」の名をとどめるビルが今も大阪北区の万歳町にあります。医科大学も薬科大学も長い歴史と伝統を誇る大学で、その流れは本学に続いています。学校教育法により、大学をはじめとする学校は、法人が開設するこ



とになっています。その法人の一つの形が私立学校法に定められた学校法人です。本学法人が中心となって旧制高槻中学校、今の高槻中学校・高槻高等学校を開設した経緯があり、2014年に、学校法人大阪医科大学と学校法人高槻高等学校が法人合併し、その後、大阪医科大学と大阪薬科大学の大学統合を目的に2016年にはそれぞれの開設者である学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学が合併しました。1996年に松原市から高槻市に移転した大阪薬科大学と高槻を本拠とする大阪医科大学の先人たちの深慮遠望があったところです。

超少子化が想定以上のスピードで進む今、学校法人や大学の合併統合が真剣に議論され始めましたが、皆さんが入学する大阪医科薬科大学と大学院は先に述べました先見の明のある学校法人が設置するもので、安心して勉学に励んでいただける基盤を持っています。入学の後、安心して思う存分勉学に励んでください。

さて、本学は学是「至誠仁術」を掲げ、建学の精神を「国際的視野に立った良質の教育、研究および医療の実践を通して至誠仁術を体現する医療人を育成する」と唱えています。百年ほど前の開設趣意書には本学は良質な教育研究診療を実践することを使命とし、卒業生は「救世仁術完成の域に達せん」とあり、即ち、至誠仁術を体現する卒業生を輩出するとしています。

ここで皆さんが至誠仁術を体現するための道標についてお話しします。学部入学生の皆さんは学校教育法にある「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」という定めに基づく初等教育を経て、中等教育の探求学習を通し

て一般教養はじめ様々な学びをされ、その成果を基礎にして本学に入学されました。大学では中等教育で身に着けた様々な能力を活かして、医学・薬学・看護学、皆さんがそれぞれに専攻する学問を深く学ぶことになります。また大学院の入学生は日本の最高学府である大学院で、大学教育で修めた学問を発展させ、それぞれの専攻科目の位置づけを科学の総体、人間社会、地球環境、そして今や宇宙にまで広げ、深く物事を考え、新たな課題を発見し、新たな知見を加え、医療の質を高めるため、勉学に励むことになります。学部生・大学院生の皆さんの勉学の道標として、学歌に「世界の知へと挑むべし」「世界に問いを発すべし」「医療を拓く人となれ」と謳われていますので折に触れて思い出して下さい。

次にこの道標に向かって学問を行うための重要な基盤についてお話しいたします。哲学者デカルトは著書「方法序説」の冒頭で「bon sensはこの世でもっとも公平に配分されている」として、私たち人間は皆生まれながらに「bon sens」を持ち合わせているとしています。この「bon sens」は「良識」とか「理性」と翻訳されることが多いですが、私は「物事を筋道立てて考える力」のことだと考えています。「物事を筋道立てて考える力」は皆さんがこれから学問を修める基盤となりますので、大学や大学院でさらにその力を磨き上げてください。

しかしながら、「bon sens」は善にも悪にもなるとされています。物事を考える前提が高邁なものであれば考えた結果は善となり、囑託殺人や戦争のようにその前提が身勝手な邪悪なものであれば、筋道立てて考えたとしてもその結果は悪となるということです。

ここで、皆さんに物事を考える前提として「恕」という言葉を贈りたいと思います。長い論語の中で、「恕」という言葉はたった二文字しか出てきませんが、「仁」を求める孔子が常に心掛けたものです。「恕」というのは諸説ありますが、「人を思い遣る」とか「人を受け入れる」という意味で、「仁」に至るには常に「恕」を心掛け、「仁」に至れば常に遍く自然に「恕」を発するようになると孔子は考えたようです。仁を目指す過程にある私たちが常に遍く「恕」を心掛けるのは極めて難しいことですが、皆さんが物事を考える前提として、できる限り「恕」を心掛けてください。そうすれば、皆さんが生来持つ「bon sens」を経て

素晴らしい結果に至るものと信じています。学歌に「病む人にこそ 耳傾けよ」「病む人とこそ ともにあるべし」「病む人をこそ やさしく包め」とあるのは、そのような願いが込められているのです。

今、世界は様々な問題をかかえ、いかようにも変化できる不安定な状態です。逆に見れば、私たちがいかようにも世界を変えることができます。新入生の皆さんにはできる限り「恕」を心掛け、科目内科目外の活動を通して「bon sens」の前提となる「恕」に満ちた教養を磨き、それぞれが専攻する学問において課題を見出し、それを解決しつつ、人々に尽くす人となって下さい。

折しも、皆さんを迎えるように皆さんの実習の場となる本部キャンパスの病院新本館、研究の場となる死因究明施設・病態モデル研究施設が間もなく竣工します。また、本学は、最先端のがん治療施設ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)を実践的に医療として用いる世界唯一の大学です。本学には皆さんがその目標を達成するために必要な他学にない環境が整っています。また、本学にはその環境にもまして私の一番の自慢である教員や職員がいます。皆さんが教員や職員と学びを深めるだけでなく、困ったり悩んだりすることがあれば、遠慮なく相談して下さい。そして、これからの学生生活を楽しく有意義なものにして下さるようお願いします。

結びとして、大阪医科薬科大学が自信をもって選抜した新入生の皆さんが、選ばれし者として、恕をもってそれぞれの個性の下、恕に満ちた教養と筋道を立てて考える力を活かし、至誠仁術を体現する医療人となることを心から願い、式辞とします。

令和七年四月三日

大阪医科薬科大学 学長 佐野浩一



支部だより

京都仁泉会 令和7年度総会 報告

文責／森本博子（学24期）

令和7年5月17日、ホテルオークラ京都にて令和7年度京都仁泉会総会が開催されました。今回は講師の手配が間に合わず講演会がなく、総会のみで開催となりましたが、それでも22名の先生方が参加してくださいました。

岩野正宏先生が司会をつとめられ、まず河野龍而会長が挨拶されました。前会長の松本恒司先生が急逝された後、会長職を引き受けられ3年経ちましたので退任される意向を話されました。その後、この一年間に鬼籍に入られた9名の先生方のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

続いて、議事に入る前に、議長に島田眞久先生が指名されました。事業報告、決算報告、監査報告、事業案、予算案が討議されました。

昨今の状況からメーカーの協力を得ることが困難になってきましたので、今まで年三回開催して来た講演会の回数を減らすこと、昨年度45号を発行した「京都仁泉会会報」の発行については、郵送料、印刷代の高騰に加え、広告収入が望めないこと、などから休刊とし、その代わりに総会の内容は「仁泉会ニュース」に掲載して周知すること、などが話し合われました。

徴収率が低い年会費については、減額してより多くの会員からの徴収を図れば、という意見がでる一方、納める会員は会費の額の変動によって変わることはないであろうから、むしろ増額し、京都仁泉会としてメーカーに頼らずしっかりとした活動をするべきだ、という意見もあり、すぐには結論を出すことは難しく、検討課題となりました。また、スポンサーなしでの講演会を開催するため講演会参加費の見直しをしてはどうか、音楽の夕べの家族参加費を会員と同額にするなどが話合われました。

会費の徴収方法について、

会計の柏木元実先生から現状のゆうちょ銀行に振込の方法では引き出すときに会長の承認が必要で非常に手間がかかり、その点を変えようすると会則の改正が必要となることが説明されました。会費徴収方法については会則の変更を含め引き続き検討することとなりました。

河野龍而先生の後、寺村和久先生が会長に就任されることが全会一致で承認され、寺村会長から令和7年度の新役員の発表がありました。

会 長 寺村和久（学37期）
副会長 北岡治子（学28期）、塩見聡志（学44期）
庶 務 岡本文雄（学40期）、岩野正宏（学35期）
広 報 森本博子（学24期）、萩原暢子（学28期）
会 計 柏木元実（学39期）、野原丈祐（学40期）、米林功二（学40期）
学 術 今村喜久子（学17期）、北岡治子（学28期）、河野龍而（学35期）
厚 生 富岡 暁（学22期）、萩原暢子（学28期）、戸田勝典（学36期）
監 事 大藪 博（学22期）、水谷 均（学26期）
顧 問 檜垣 勝（学11期）、内田 実（学12期）、宮地道弘（学18期）、清水鴻一郎（学22期）、田代 博（学23期）

総会終了後、集合写真を撮り、懇親会とうつりました。内田実先生の発声でビールで乾杯し、松花弁当をいただきながら話がはずみました。最後に森本博子が京都仁泉会の活動が継続していけるよう先生方のご協力をお願いしお開きとなりました。



2025年度 京都仁泉会総会報告

1. 物故同窓会員

久野敏人 先生（高19期）

令和6年12月15日 ご逝去

中津川直人 先生（高20期）

令和6年11月23日 ご逝去

吉富錠二 先生（学3期）

令和4年5月11日 ご逝去

神部 彰 先生（学7期）

令和7年1月 ご逝去

竹田一郎 先生（学8期）

令和3年9月4日 ご逝去

酒井 晃 先生（学11期）

令和6年4月3日 ご逝去

上原従正 先生（学14期）

令和7年3月24日 ご逝去

森本英夫 先生（学22期）

令和7年1月23日 ご逝去

高畑龍一 先生（他学）

令和4年11月12日 ご逝去

2. 議事

第1号議案

2024年度 事業報告に承認を求める件

庶務 岩野

事業報告

①大阪医科薬科大学仁泉会 2024年5月

26日（日） ホテルグランヴィア京都

京都仁泉会 総会 14:00～ 5階 千載の間

大学総会 15:00～ 5階 古今の間

大学懇親会 16:00～ 3階 源氏の間

②京都仁泉会 学術講演会案 2024年11

月16日（土）

ミニレクチャー：北岡治子 先生

『血糖自己測定による ICT の活用』

特別講演：大阪医科薬科大学 眼科学教授

喜田照代 先生（H8卒）

「糖尿病網膜症・黄斑浮腫の治療と病診連携」

参加者 26名

③京都仁泉会 音楽の夕べ（案） 2024年8

月25日（日）ホテルオークラ京都

演者：ブルーグラス・カーネルズ

参加者 38名

④京都仁泉会会報誌 第45号 発刊 2024

年10月

第2号議案

2024年度 決算報告に承認を求める件

会計 柏木先生

監査報告 水谷先生

大藪先生

第3号議案

2025年度事業計画（案）に承認を求める件

庶務 岩野先生

⑤京都仁泉会 総会 2025年5月10日（土）

ホテルオークラ京都

⑥京都仁泉会 学術講演会案 2025年11

月15日（土） ホテルオークラ京都

演者：未定

共催：シオノギ製薬

⑦京都仁泉会 音楽の夕べ 2025年8月31

日（日）ホテルオークラ京都

演者：ハーブとチェロの演奏

⑧2026年 総会 学術講演会 2026年5月

第4号議案

2025年度予算計画（案）に承認を求める件

会計 柏木先生

第5号議案

次期役員について

第6号議案

1）会報誌の廃止について

（会報制作費 260000円 協賛26社→5社）

仁泉会ニュースに掲載依頼

2）音楽の夕べについて 会費の見直し

3）会費振込銀行の変更 会則の変更

4）会費、講演会参加費の見直しを行い、学術

講演会をスポンサーなしでも実施する

その他

支部だより

令和7年度

仁泉会大阪府支部連合会

支部長会および学術講演会報告

令和7年5月10日（土）、ホテルグランヴィア大阪において、令和7年度仁泉会大阪府支部連合会支部長会および学術講演会が開催されました。当日は支部長会に27名、学術講演会には46名、懇親会には38名の先生方にご参加いただきました。

支部長会報告

司会の大植睦先生（学40

期）の開会挨拶に続き、会

長の霜野良一先生（学28期）

よりご挨拶がありました。ご挨拶

の中で霜野会長は現在、

大阪府連では理事の奥村隆

司先生（学31期）を中心に

広報委員会を立ち上げ、府

連活動の認知向上に努めて

おり、今後も継続していく事、また、理事の福本敏子先

生（学24期）を中心に、昨年度に引き続き「産業医講

習会」の開催が予定されている事を述べられました。

続いて、令和6年度庶務報告を副会長の御前治先

生（学33期）、事業報告を同じく副会長の大西洋一郎

先生（学25期）より行っていただきました。奥村先生か

らは、大阪府下の会員数や会費納入状況について、

資料を用いた説明がなされました。

その後の議事では、理事の上野 豊先生（学27期）

による令和6年度収支決算報告および令和7年度収支

予算案が説明され、それぞれ承認されました。続いて、

大西副会長から令和7年度の事業計画案が提案され、

こちらも承認されました。

また、役員改選についても協議が行われ、立候補者

全員が承認されました。休会を挟んで臨時理事会が開催

され、引き続き霜野会長が再任されることが決定しま

した。会の再開後には、出席いただいた各支部長の先

生方のご紹介が行われ、御前副会長の閉会の辞をもっ

て支部長会は終了いたしました。

学術講演会報告

支部長会に引き続き、同会場にて令和7年度の学術

講演会が開催されました。これまで秋に開催しておりまし

たが、今年度は企業後援の終了に伴い、役員会での

協議の結果、春の支部長会と同日に変更しての開催と

なりました。ご案内が直前となったうえ、懇親会につきま

しては会費制での実施となりましたが、講演会・懇親会

ともに多くの先生方にご参加いただき、盛会となりました。

開会の挨拶は霜野会長が簡潔に務められ、森川浩志

先生（学36期）の座長進行のもと、講演会が開会い

たしました。



座長
森川浩志先生

学術講演

演題：「急性冠症候群治療の最前線」

講師：森田 英晃 先生

（大阪医科薬科大学 内科学Ⅲ教室 教授／学44期）



森田英晃先生

本講演では、令和7年4月

に大阪医科薬科大学 内科

学Ⅲ教室教授にご就任され

たばかりの森田英晃先生を

お招きしました。ご多忙の中

にもかかわらず快く講師をお

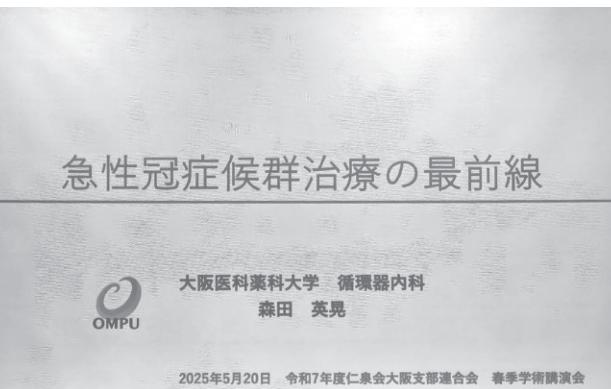
引き受けいただき、この場を

お借りして改めて御礼申し上

げます。

ご講演では、循環器領域の中でも特に重要な「急性

冠症候群」に焦点を当て、最新の診断・治療指針や、



ガイドラインに基づいた薬物治療およびインターベンションの進歩について、具体的な症例を交えながらわかりやすくご解説いただきました。会場からは多くの質問が寄せられるなど、活発な討議がなされました。



講演終了後には懇親会が開催され、出席最年長である佐藤公彦先生（学12期）のご発声による乾杯で開宴となりました。会場は和やかな雰囲気包まれ、日々の診療の情報交換にとどまらず、学生時代の思い出やクラブ活動の話題など、世代を超えた交流の場として大いに盛り上がりました。



今後も大阪府支部連合会では、臨床に役立つ最新の医学情報の提供と、同窓生同士の親睦を深める場としての活動を継続してまいります。引き続き、多くの先生方のご参加を心よりお待ちしております。

以上をもちまして、令和7年度支部長会および学術講演会の報告とさせていただきます。開催にご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

今後の予定

・第2回産業医講習会

日時：令和7年8月2日（土）

午後3時～午後5時

会場：大阪府医師協同組合 8階 大ホール

※生涯研修（専門）2単位

・第3回産業医講習会

日時：令和8年2月14日（土）

午後3時～午後5時

会場：大阪府医師協同組合 8階 大ホール

会長就任のご挨拶

文責／霜野 良一（学28期）

令和7年5月10日（土）、ホテルグランヴィア大阪にて開催された支部長会において役員改選が行われ、同日開催の臨時理事会にて、引き続き3期目の会長を拝命いたしました。再びこの重責を担うこととなり、身の引き締まる思いでございます。微力ではございますが、精一杯努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

まず初めに、このたび任期満了にてご退任されました飯田 稔先生（学18期）、村木宏要先生（学27期）の、長年にわたるご尽力とご貢献に心より感謝申し上げます。お二人の先生とは、会長就任以前より会の運営をご一緒し、会長職に就いてからの2期6年の間も変わらぬご支援を賜りました。誌面をお借りし、改めて厚く御礼申し上げます。

今回の役員改選では、新たに高槻支部長の保田 浩先生（学31期）、淀川支部長の熊野宏二先生（学39期）が新役員として加わられました。お二人は、これまでも支部の発展にご尽力いただいております。今後さらに活気ある会運営が展開されることを期待しております。

さて、コロナ禍を乗り越え、会の活動を本格的に再開することができた2期目においては、会の認知度向上を目指し、従来の事業に加えて、令和7年2月に産業医講

習会を開催いたしました。こちらは、理事の福本敏子先生（学24期）を中心に企画・実施され、多くの会員にとって有益な学びの機会となりました。

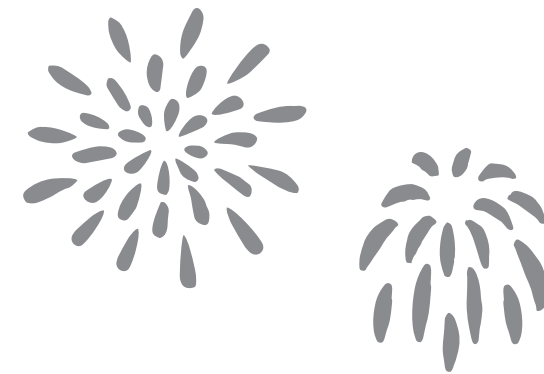
また、中央区・天王寺区・浪速区の各支部による合同懇親会も実施され、支部の枠を超えた交流が深まりました。こちらは理事の奥村隆司先生（学31期）、長野文昭先生（学32期）、久保田泰弘先生（学36期）、森川浩志先生（学36期）により以前からご提案をいただいていたものであり、コロナ禍で開催が出来ずにはおりましたが、2期目に無事開催をすることが出来ました。若い先生の参加も多くいただき、皆様の交流の場として大変有意義な催しとなりました。

このように会の運営は、役員および会員の皆様一人ひとりのお力添えによって成り立っており、あらためて深く感謝申し上げます。

今期におきましても、支部間の連携を大切にしながら、会員の皆様にとって意義ある活動を進めてまいります。引き続きのご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に余談となりますが、関西万博に2度足を運びました。大屋根リングから眺めた夕日は非常に美しく、心に残っています。2度目の訪問では17時頃から入場し、20時30分からの水上ショー、続いてドローンショーを鑑賞しましたが、どちらも圧巻で、一見の価値があります。皆様もぜひ、万博の魅力を体感してみてください。

令和7年5月30日記



支部会・クラス会開催にあたって

支部会・クラス会開催にあたり、ご案内発送や出欠の集計等を仁泉会事務局にてお手伝いさせていただきます。お気軽にご相談ください。

仁泉会事務局 TEL／072-682-6166 FAX／072-682-6636
e-mail／jimu@jinsenkai.net

支部だより

仁泉会港・大正合同支部懇親会

文責／奥村隆司（学31期）

令和7年3月29日（土）に仁泉会港支部（支部長 学31期 奥村隆司）と大正支部（支部長 学22期 石村俊信）の合同懇親会を港支部総会後に中之島フェスティバルタワー2階のレストラン「アラスカ」で行いました。

今回で3回目であるので、「ご無沙汰しています」「お元気でしたか」との挨拶で始まりました。港支部からは7名、大正支部からは4名参加されました。港支部の大塚顕宏先生（学14期）の乾杯のご挨拶の後、懇親会となりました。伝統を守りつつ挑戦してきた西洋料理店アラスカのシェフお勧めの美味しい季節のコースを楽しみながら出席者それぞれに近況報告などお話しいただきました。多岐に渡り取り留めもない話題でしたが、後継者問題や自身、友人の健康問題は皆が一致する悩ましい話題となりました。専門や学年は違いますが、学生時代、研修医時代の話となると「あの先生は厳しかったなあ、単位くれなかった」「教養の時代はほとんど授業に出ん

かったわ」「多津屋のカレーカツ丼、よう食べたわ」「西医体があったね」「研修医時代 ×× 先生にはよくいじめられたけど○○先生は優しかった」など話は尽きません。

学年は違へど同じような価値観を持ち同じ空気、同じ釜の飯で過ごした同窓というのは心を許すものがあります。今回の参加者は学37期の高瀬先生（もう還暦超え）が一番若く高齢化が気になるところであります。若い先生にも声をかけましたがなかなか参加してくれず困っています。おそらくどの支部でも悩みの種かと思えます。しかし、同窓であれば一度参加していただければ気心もしれきっと楽しく懇親できると思います。今後も引き続き若い先生たちをお誘いする予定です。閉会の挨拶は大正支部の石村俊信（学22期）にご挨拶をしていただき、来年も皆元気で参加することを約束して終了しました。

出席者（敬称略）

[港支部]

大塚顕宏（学14期）
西山和男（学25期）
木戸友幸（学26期）
中山富雄（学30期）
奥村隆司（学31期）
多根一之（学32期）
高瀬卓志（学37期）

[大正支部]

石村俊信（学22期）
福本健治（学24期）
北村彰英（学24期）
一ノ名 正（学31期）



（敬称略）前列 左より 西山、石村、大塚、福本
後列 左より 高瀬、多根、木戸、中山、一ノ名、奥村、北村

支部だより

令和7年度仁泉会神戸支部 支部総会報告

文責／藤田能久（学47期）

令和7年5月25日（日）、ANAクラウンプラザホテル神戸にて令和7年度 仁泉会神戸支部 支部総会が開催されました。日曜日にもかかわらず支部総会へは14名の先生方に参加いただきました。

令和6年度にご逝去された先生方に黙祷を捧げたのち、長年にわたり神戸支部を牽引されてこられた増井裕嗣先生（学29期）より最後となる会長挨拶がございました。

昨年の診療報酬改定後、病院・診療所問わずに経営状況が非常に厳しくなっている現状を鑑みて、仁泉会神戸支部としても県医師会、神戸市医師会とのより一層の協力体制の構築が必要とのご挨拶がございました。

仁泉会本部からのご報告は引き続き開催されました本部総会にて行われました。

本年度の子弟医学部入学・喜寿・米寿のお祝いに關しては該当者のご出席はございませんでした。

次いで、神戸支部報告として、1) 令和6年度 支部総会 2) 令和6年度 新年会 3) 和6年度 ゴルフコンペについて報告の後、谷尻 仁先生（学15期）議長の下、議事に移りました。

1) 会計・収支報告 浪方 典宏先生（学29期）
2) 監事報告 日下孝明先生（学16期）
3) 事業報告（令和8年度 神戸支部総会に關して）など各報告が行われた後、全会一致で議事が承認されました。追加事項として神戸支部における会費納入率の低下について意見交換が行われました。

最期に新会長 米田 豊先生（学30期）より閉会の挨拶を頂き、支部総会が滞りなく終了しました。

以上、神戸支部総会の報告となります。

お知らせ

1) 新年会

日時：令和8年1月24日（土）18時～
会場：イグレックベガ（中央区元町）

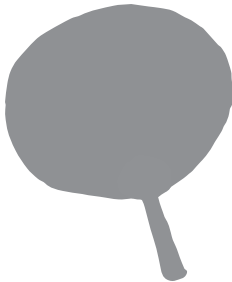
2) 令和8年度 神戸支部総会

日時：令和8年7月11日（土）16時～
会場：ホテル北野プラザ六甲荘

会員の先生方におかれましては、お知り合いの先生方にもお声掛けの上、ご参加をお待ちしています。

出席者（敬称略）

福永 晶（学14期）
谷尻 仁（学15期）
日下孝明（学16期）
浪方典宏（学29期）
森松伸一（学29期）
増井裕嗣（学29期）
中林まゆみ（学29期）
米田 豊（学30期）
高井 豊（学30期）
岡林孝直（学30期）
越智 豊（学32期）
鈴木秀治（学38期）
中本博士（学39期）
藤田能久（学47期）



支部だより●●

仁泉会姫路（播州会）支部 総会・懇親会 開催報告

文責／吉田悌三郎（学27期）

令和7年5月10日（土）姫路市のホテルモンテレに於いて総会、講演会及び懇親会を開催しましたので報告致します。

支部長の吉田悌三郎（学27期）が総会の開会を宣言し、姫路（播州会）支部の担当地域を再確認すると共に新会則を決定しました。姫路（播州会）支部は宍粟市以南で明石市以西の兵庫県を広く担当しておりますが、平成28年3月に事実上姫路市以西と高砂市以東で支部が分割されることになり現在に至っております。

今回当支部の会則として宍粟市以南で姫路市以西を担当地域と致しました。京阪神地区の支部と比較すると地域は広いものの総会に参加できる会員数の少ないことが難点ですが、同窓が集まり本音の話ができる貴重な機会となっています。

今回の学術講演には大阪医科薬科大学眼科学教室教授 喜田照代先生（学45期）を招待し「眼循環疾患と全身との関わり」というテーマでご講演頂きました。眼科以外の開業医にも関連した内容を分かりやすく説明して頂き、講演後の質疑応答も活発に行われました。また、ご自身の米国留学に際してのご苦勞や学生時代の



弓道部での活動など演題以外にも話題を広げて頂き、皆興味深く拝聴致しました。

仁泉会本部から大森英夫副理事長（学25期）もご出席頂きました。仁泉会本部報告をされると共に、来る参議院選挙では日本医師会常任理事の釜范敏氏を応援するように熱弁を振るわれました。その後、前支部長岡村信介先生（学23期）から乾杯の発声があり、参加者全員の健康を祈念して乾杯しました。ホテルモンテレ宴会部のフランス料理のコースを着席で堪能しながら歓談し、例年恒例になっている全員の近況報告をしています。やはり高齢になると健康の話となり、働き盛りの先生からは開業で苦勞している話が多いようでした。また、年配の先生方から一生引退は考えず、何らかの地域医療に貢献したいという頼もしい発言があり感激致しました。最後に出席者の記念撮影を行い、来年の総会での再開を約束して散会となりました。

令和7年度仁泉会姫路（播州会）支部総会出席者

- 1 片嶋 隆先生（学50期）
- 2 田村 亮先生（学28期）
- 3 宮本茂好先生 副支部長（学29期）
- 4 喜田照代先生 本学眼科学教室教授（学45期）
- 5 吉田悌三郎 支部長（学27期）
- 6 吉田繁一先生（学14期）
- 7 岡村信介先生 前支部長（学23期）
- 8 三宅隆雄先生（学57期）
- 9 松浦峻行先生（学61期）
- 10 辰巳嘉章先生（学46期）
- 11 大森英夫先生 仁泉会副理事長（学25期）

記念撮影の後列左から1～9

前列左10、右11です。

クラス会だより

令和7年度 学14期(昭和40年卒) 36会同窓会報告

文責／島田真久（学14期）

例年の36会であれば、総会后、ゴルフ組と、観光組に分かれての一泊二日の会であったが、ここに来て、寄る年には勝てずゴルフの組合せが出来なくなり、今年は、一日だけの日程となった。

令和7年5月18日（日）に36会開催に先立ち、午前中に桂離宮を見学後、JR 京都駅すぐ近くにあるザ・サウザンドホテル京都での総会となった。今年の当番幹事は昨年度に決定していた上原先生であったが、昨年の暮れに急に体調を崩され、先生の依頼で島田と杉之下が急遽ピンチヒッターで幹事を引き受けることになったの開催であった。桂離宮とホテルは、上原先生の計画であったのでそのまま引き継ぐことにした。

当日は、当初、雨の予報であったが、幸に晴れとなり、石崎、大塚、神谷ご夫婦、児玉、島田夫婦、杉之下、中島、福永、横見の11名が参加し、新緑の庭園を楽しむことができた。皆さん足元がかなり不意の中で、



大きな飛び石の連続の狭い道を転倒することなく、また、池に転落することなく1時間の道のりを全員が無事完歩することが出来たのが何よりであった。

午後からのホテルの総会は、小谷、藤井、吉田が加わり36会員としては、総勢12名の久しぶりの会で、昨年从今年にかけて鬼籍に入った、田村、上出、有澤、上原各先生への黙祷の後、開宴となった。各先生方の孫の話を中心とした近況報告に続き、今年の経験から一年後の健康状態がどうなっているか予測ができないことから来年は、小谷先生を中心に大塚、藤井の大阪組が引き受けることが決まり、来年の再会を期して解散となった。



クラス会だより

2025年2月 第53期同窓会開催(2回目)のご報告

文責／かわしげクリニック 川茂聖哉（学53期）

令和7年2月15日、梅田の中華料理大東洋で行われましたので、幹事を代表してご報告致します。

幹事代表の藤原聡枝先生（大阪医科薬科大学産婦人科）の挨拶後、開催場所を快く提供してくれた洪里和良先生の乾杯の音頭でスタートしました。

遠方からの参加であったり、仕事終わりで遅れて来られる方もいらっしゃいましたが、概ね集合した頃に、参加者全員順番に近況報告スピーチを行ってもらいました。見た目は多少変わっていてもキャラクターは昔のままなので、スピーチを聞いていると、まるで学生時代に戻ったような気持ちになりました。やっぱり同窓会は良いものだなと思いつつ、その後は歓談の時間となり、昔話に花を咲かせました。お互いの家族の話、趣味の話、はたまた開業についての相談や疾患についての質問、あるいは形成外科医に美容の相談などで盛り上がっていたようでした。前回よりも開業医も増えつつあり、また大学病院や病院などでも重要なポストについている先生が多くなっている印象で、頼りになる同級生が多いことは、今後お互いの医師人生が一層充実していくのではと嬉しく思いました。

前回の同窓会が5年前だったので、5年ぶりにお会いできた方々や、前回参加できずで卒業以来20年ぶりの

再会もありました。前回の同窓会で再びつながったことでスモールグループでのキャンプに毎年行くようになった先生方もおられました。それぞれが今の人生を謳歌しているのを知るにつれ、同窓会の楽しい一面を再認識しました。また、今回は諸事情（留年や国試浪人は誰にでも起こり得ること）で学年が途中から変わってしまった先生方にもお声がけしたので、久しぶりにお会いできたことも大変嬉しかったです。

他の幹事の皆様本当に有難うございました。そして忙しい中お集まりの皆様もお疲れ様でした。今回は(今回も)幹事の不手際があり、同窓会の案内が行き届いておらず参加できなかった先生がいらっしゃったり、集合写真撮影が遅れたため先に帰宅された先生方は写っていないなど、申し訳ありませんでした。楽しい時間は、あっという間に終わってしまいましたが、今後は5年毎に開催することになりましたので、また次回の53期同窓会を宜しくお願い致します。ちなみに今回は100%の参加を目標にしたいと思っています。

facebookの『大阪医科大学53期』グループもLINEのグループがあるので幹事までご連絡頂ければ登録させて頂きます。もちろん学年がずれてしまった先生方も大歓迎ですし、参加したい当時の教授を含め指導して下さいました先生方ご連絡くださいましたら幸いです。

最後に、前回同様、洪里先生のお計らいもあり、豪華で美味しい本格中華を大変リーズナブルなお値段で頂くことができました。洪里先生いつもありがとうございます。準備などでご迷惑をお掛けしますが、また5年後にも宜しくお願い致します。

幹事代表 藤原聡枝：satoe.fujiwara@ompu.ac.jp
(大阪医科薬科大学産婦人科)



大阪医科薬科大学 昭和47年卒業 学21期同窓会開催のご案内

日 時：2025年11月2日（日）12時30分 開宴

場 所：中国料理桃谷樓 高槻阪急スクエア店

高槻市白梅町4-1

高槻阪急スクエア6F（西武デパート）

T E L：072-682-9233

母校大学病院新本館B棟 が2025年7月に開院します。

すでに開院しているA棟を合わせ、当日朝10時30分頃から新病院見学会を予定しています。

また、宴会後 JR高槻西口に大阪から新築移転した“関西将棋会館”の見学も可能です。

将棋に興味のある方はどうぞ！

後日改めてメール、FAX等でご連絡いたしますので、多数の皆様のご出席をお待ちしております。

47同窓会 幹事：古林光一、後藤研三

大阪医科薬科大学 昭和57年卒業(学31期)同窓会開催の

お知らせ(第2報)

日 時：2025年11月9日（日）13時開宴

場 所：ホテルアベストグランデ高槻

高槻市芥川町1-14-1

T E L：072-686-0001

7月オープンの病院本館やともに学んだ校舎を眺める企画も準備しています。

会期が近づきましたらご案内させていただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

学31期 一ノ名、荻原、保田

仁泉ひろば

jinsen-park

食中毒を来す毒魚の話

文責／岡野 准（学21期）

コイ科（鯉・草魚・アオ魚・ハクレン・コクレン等）の魚の胆嚢には人に対する毒性があります。一般的には魚の調理時に胆嚢をつぶすと胆汁が漏れて魚全体に苦みが回るので、胆嚢を傷つけないように他の内臓と共に捨てるのですが、日本・中国及び東南アジアでは胆嚢に薬効が有ると信じられており、わざわざ食べる人が有るようです。胃腸障害・腎不全・舌の痺れ・黄疸・意識障害等が現れるそうで、死亡例もかなりあるようです。

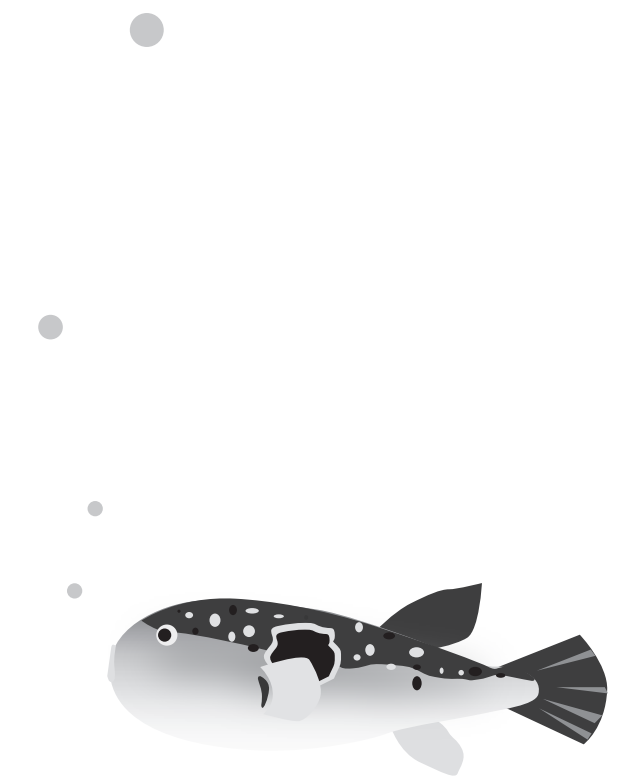
ウナギ目魚類（鰻・真穴子・ウツボ等）の血液にはイクチオトキシン（魚に対して有毒な化合物或いは魚に依り産生される毒素の総称）という蛋白質性の毒性成分が含まれていて、大量（1000ml位）に摂取すると死亡する可能性があるそうです。粘液にも毒性があると言われ、触ったらよく手を洗う方が良いでしょう。本邦での食中毒例は有りませんが、調理人の手指の傷の痛み・浮腫や血が飛んで目の痛み等があるそうです。蛋白質性の毒なので、60℃、5分の過熱で毒性が無くなるとされています。ですから普通に料理されたものであれば食べても問題ありません。

ハタ科のイシナギ或いはサメ・マグロ・カツオなどの大型魚の肝臓はビタミンAが豊富で肝臓を多量に食べると、ビタミンA中毒を起こします。頭痛・発熱・嘔気、嘔吐・浮腫・下痢・腹痛・皮膚剥離等が見られます。ビタミンAは脂溶性ビタミンで排泄が遅く多量摂取は中毒の可能性のあることは広く知られています。

バラムツ・油ソコムツは脂肪にワックスエステル（ロウ）が多く、人では消化できませんので、食後腹痛・下痢・皮脂漏症が起きます。この為市場には流通させてはならないことになっていますが、食べると脂ののりが良いとわざわざ釣って少量だけ食べる人が有ります。

河豚毒（テトロドトキシン）、アオブダイのパリトキシン、ソウシハギのパリトキシン等は猛毒で食中毒すると死に至る可能性が高く要注意です。河豚毒やパリトキシン・マイトキシンの後述のシガテラ毒等は魚が作るものではなく、魚がこれらの毒に耐性があり、食餌によって体内に蓄積しているものなのです。先ず河豚ですが、釣り人が釣り上げた河豚を自分で調理して中毒する例が多いようです。

河豚は種類により毒の多い部位が異なり調理には国家免許が必要です。シガテラ毒はオニカマス・バラハタ・バラフエダイ・石垣鯛・赤マダラハタ・アマダレ毒ハタ・アオノメハタ・尾白バラハタ・マダラハタ・フエ毒タルミ（姫フエダイ）・オオメカマス・カスミ鰻・ギンガメ鰻・毒ウツボ・イツテンフエダイ・間八・ヒラマサにみられます。これらの魚は食物連鎖の上位にある魚で、大きい個体ほどシガテラ毒を多く貯め込んでいますので、釣りあげても大きいものは写真に残して海にお帰り願うことが最善でしょう。シガテラ毒で死ぬことは殆どありませんが、半年から一年苦しめられますし死亡例も稀にあります。



仁泉ひろば

jinsen-park

医療機関経営の危機的状況の改善に向けて

文責／茂松茂人（学27期）

この度仁泉会ニュースに現在の医療機関を取り巻く状況について私の思いを述べる機会を与えて頂きまして誠に有り難うございました。

私は昭和53年に当時の大阪医科大学を卒業して整形外科学教室に入局いたしました。平成2年に茨木市真砂におきまして茂松整形外科として開業いたしました。その後、大阪府医師会会長を6年間経験し、現在、日本医師会副会長並びに中央社会保険医療協議会の委員を務めさせて頂いております。平素は仁泉会の皆様には大変お世話になり誠に有り難うございます。

現在、病院をはじめとする医療機関の経営はかつてないほどの大変厳しい状況にあります。入院、外来、在宅医療、いずれも経営的に厳しい局面にあるにもかかわらず、一方で政治の世界では医療費削減ありきを出発点とした主張もあります。医療費削減のために何をするかという提案が安易になされることに、心の底から憤慨をしています。医療は国民の命と健康を守り、安心した生活を送るための最も必要なものであります。医療のないところには人は住めません。町はできません。

4月14日開催の自由民主党社会保障制度調査会に提出された資料によれば令和4年度・5年度と比べると令和6年度の病院、無床診療所、有床診療所の経常利益率（推計値）が平均値、中央値とも非常に下がっていますが、特に最頻値が病院マイナス1～0%、診療所マイナス3～マイナス2%、有床診療所マイナス1～0%とボリュームゾーンがマイナスにシフトしています。

また大学病院の経営状況も医業収入が上がったものの医業費用がさらに上昇して1大学平均・月額換算で4千8百万円のマイナスとなり、1大学年額平均5億7600万円、82大学で472億円のマイナスと推計されています。（国公私立大学18病院データ令和6年6.7.8月、全国医学部長病院長会議資料）

こうした危機的状況を国民の皆様方に訴えるべく、日本医師会は3月12日に6病院団体と合同記者会見を開催し、そこで合同声明を公表いたしました。

賃金上昇と物価高騰、さらには日進月歩する医療の

技術革新への対応には十分な原資が必要であり、経済成長の果実を活用するなど、補助金や診療報酬による機動的な対応も行わなければなりません。著しくひっ迫した経営状況を鑑みるとまずは補助金での早期の適切な機動的対応が必要であり、さらに診療報酬で安定した財源を確保しなければならないと考えています。令和8年度診療報酬改定の前に期中改定も視野に入れなければなりません。

この他、医療DXへの対応、働き方改革、医師偏在対策、医薬品をめぐる最近の状況、かかりつけ医機能が発揮できる制度整備など医療を取り巻く環境がさらに厳しくなります。

医療政策もすべて政治の場で決まってまいります。これを解決するには医療を提供する集団がどれだけの政治力を持つかにかかってきます。7月に予定される参议院選挙は「医療の未来を左右する重要な選挙」と言われています。日本医師連盟は7月の参议院議員選挙に日本医師会の釜范 敏副会長を組織内候補として擁立することを決定しています。

釜范先生は、6期11年にわたり日本医師会の常任理事、副会長として幅広い業務を担当され、医師会業務に精通し、特に新型コロナウイルス感染症対応では、アドバイザリーボード構成員等を務められるなど医療界の代弁をしていただきました。また、政治に対する造詣も深い釜范先生は地域医療に携わり、地域医療が抱える課題にしっかりと取り組んでおられるだけでなく、幅広い人脈をもっておられ、行動力、決断力もあり余人をもって代えがたい存在であります。

仁泉会の先生方、医療界が団結して、釜范先生が大きく飛躍して十分に活動できますよう絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

青の仁泉

Blue Period

学生で医学生理学クイズ日本大会2025 (PQJ2025) 開催報告

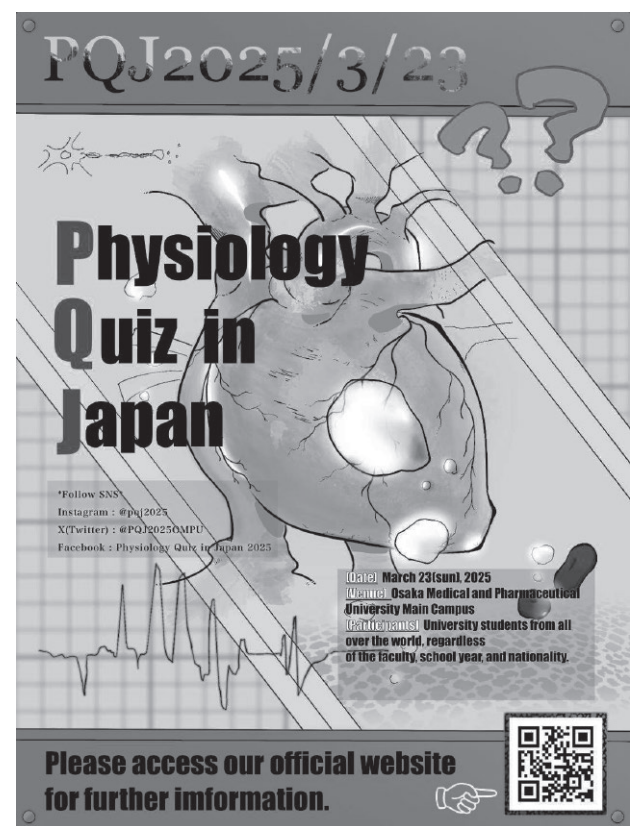
文責／大阪医科薬科大学 貴田光香子(医学部4年)

【PQJ2025とは？】

今年3月23日(日)に医学生理学クイズ日本大会2025(PQJ2025)を本学で開催いたしました。

PQJ(Physiology Quiz in Japan)は、生理学を中心とした基礎医学の国際クイズ大会であり、参加者が仲間と共に臨場現場に必要な知識を楽しみながら学ぶことができる場であるとともに、世界中の大学生の交流の場として、毎年開催されています。2016年の第1回大会以降、毎年日本の大学が主催校として運営を担っています。参加資格は大学生であることのみであり、学部、学年、国籍は問いません。

PQJ主催大会として第10回となる今大会は、本学の学生が主催し、日本を含む世界4か国・地域(インドネシア、シンガポール、日本、スロベニア)から8チーム27人の大学生が、英語で医学・生理学の知識を競い合いました。



PQJ2025 大会ポスター

【大会の準備】

私がPQJを知ったのは2年生の時でした。第9回大会であるPQJ2024(島根大学主催)に参加したことをきっかけに、本学卒業生でありPQJ2017の共同代表を務めた井上鐘哲先生からお誘いを受けました。

はじめは、3年生で部活やサークルの運営が忙しくなることや、一緒に出場したメンバーに声をかけても反応がばらばらだったことを考え、決断を迷いました。それでも挑戦したいという気持ちが勝り、協力してくれそうな学生に「手伝ってほしい」と声をかけ、なんとか私を含めて5人が集まり、PQJ2025の主催を決意することになりました。

PQJ事務局の先輩方とのミーティングを経てPQJ2025の主催が正式に決まってからは、メンバーで分担して各所への連絡、企画書の作成、渉外、ポスターの作成、ホームページやSNSの運用などを進めていきました。メインの運営と問題作成は当時の3年生が担い、交流会の準備は意欲的な2年生の後輩に任せました。中でも苦労したのが、資金集めと問題作成でした。

資金集めは大会1か月前まで頭を悩ませました。宣伝ポスターやホームページ作成のための費用、大会ロビーや参加賞の用意、審判の先生方のご負担をできるだけ軽減したい、異文化交流を充実させたい…と考え、相応の資金が必要でした。仁泉会(同窓会)に寄付をお願いしたところ快くご支援いただき、加えて本学卒業の先生方からも個別に温かいご支援を多数いただき、予定よりも参加者や審判の先生方、そして運営学生にも還元することができました。

PQJのクイズで大切にしているのは、臨床と基礎の知識を結びつける学びを得られること、そしてすべて英語で実施することです。問題作成では、将来の医療現場に必要な知識の核心を突いた問題を作ること、基礎医学を学んだばかりの低学年でも挑戦できる難易度であること、出題範囲に偏りが無いことに加えて、英語での作成というハードルもあり、挑戦しがいいのある内容だったと思いますが、運営メンバーの優秀な頭脳に支えられ、なんとか完成させることができました。

クイズはもちろんですが、PQJの醍醐味は何といっても国際交流です。前大会PQJ2024に参加した際、インドネシアチームが食事の内容について細かく気にしていたことを思い出し、今年度の大会では海外からの学生が安心して参加できるよう、宗教的配慮が必要な点を事前にGoogleフォームで確認するなど工夫をしました。

PQJでは毎年クイズ終了後に交流会を実施しており、

PQJ2025でも学生生活の話題はもちろん、自国の文化についても様々な会話が飛び交いました。互いに英語が流暢でなくても、翻訳アプリを活用したり、単語だけで伝え合ったりして、どこを見ても活発な交流が行われていました。

【当日へ】

3月の試験と並行しながらも、メール担当者は参加者からの問い合わせに迅速に対応し、各メンバーが知り合いに大会の告知を広めてくれました。

大会前の2週間は、「うまくいくのか」という不安を抱えながらも、当日のスライド作成、司会台本の準備、SNSでの広報、進行の予行練習などに追われました。

当日、初期からの運営メンバー4人のうち2人が来られず、2年生の後輩も2人だけだったため、「この人数では進行は無理かもしれない」と危機感を抱き、笑われるのを承知で、同級生に泣く泣くスタッフや準備を手伝ってもらえないかとお願いしました。

その時期はPQJ以外の記憶があまり残っていないほどでしたが、それでも私個人としては目標の7割程度しか準備できておらず、大会当日の朝を迎えることになりました。限られた準備時間の中でスタッフに役割分担だけ伝え、細かな部分は任せるしかない状況でした。問題スライドの完成は本番の1時間前という綱渡りでしたが、想定外の事態にも学生スタッフが臨機応変に対応し、審判や事務局の先輩方の支えもあって、大きなトラブルなく無事に大会を楽しむことができました。



フリッククイズの様子

【大会を終えて】

大会を終えて、まず思ったのは「なんとかなったな」ということでした。予想外の困難もありましたし、運営メンバーは私を含めて誰も英語を流暢に話せるわけではありませんでした。失敗したらどうしよう…という気持ちで、1年前のまたとないチャンスを逃していたら、きっとこの未知の景色を見ることはできなかったと思います。

準備を入念に行うことももちろん大切ですが、時には思い切って挑戦し、やりきる勇気も必要であることを、私は身をもって学びました。

このような大規模な国際大会を学生主導で開催できたことは、私たちにとって非常に貴重な経験であり、一生の財産になると思います。

仁泉会をはじめ、ご寄付いただいた本学卒業の先生方(秋岡 壽先生、飯田 稔先生、木野昌也先生、新井基弘先生、熊野宏二先生、横田直人先生、大植陸先生、大植祐貴先生)、審判の先生方(小野富三人先生、佐藤達也先生)、後援の日本生理学会の皆様、大会を支えてくださったPQJ事務局の皆様(井上鐘哲さん、岡田浩太郎さん、岩田陽太さん、工藤大樹さん、上田大輔さん)、協賛企業(医学書院、丸善、羊土社)の皆様、広報にご協力くださった日経メディカルの皆様、特別顧問の Malaya 大学 Cheng Hwee Ming 先生、生理学教室の先生方をはじめ、本大会に関わってくださったすべての皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

そして、PQJの主催という大きな挑戦とともに乗り越えてくれた仲間たち、一緒に大会を盛り上げてくれた参加者の皆様に、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



大会の様子



交流会の様子



休憩時間の交流



大植 睦先生・小野先生・運営学生で慰労会

冊子 抜 抜

日本医事新報 No. 5273 に河野恵美子先生(母校 一般・消化器外科)の記事が掲載されていたのでご紹介いたします。



#社会保障制度 #医療制度改革 #外科医

「Z世代の選択が浮き彫りにする医療制度の影 ～抜本改革への呼びかけ」

河野恵美子(大阪医科薬科大学一般・消化器外科)

先日、通勤電車で揺られながら、スマホでドラマ『ドラゴン桜2021』を視聴した。

「国はな、お前らにはバカなままでいてほしいんだ。それが本音なんだ。何にも疑問も持たず、何にも知らないまま、調べないまま、ただひたすら制度に従い働き続け、金を払い続ける国民であってほしい。それを別の言葉で言いかえると何だ？」

「馬車馬だ」

この台詞を聞いたとき、外科医たちの姿が脳裏をよぎった。高い倫理観と使命感を抱き、制度に従い、働き続ける外科医。「24時間365日、外科医であれ」と教育され、労働者としての権利や制度の知識を学ぶ機会はきわめて少ない。自分の健康や家族との時間を犠牲にし、報酬は時間単価で換算するとコンビニのアルバイト以下になることもめずらしくない。この現状は、桜木建二の言う「馬車馬」に相当しないか？ 私の頭の中に浮かんだ疑念は、医療現場では不謹慎で、権利意識の高い、利己的な考えだとお叱りを受けるかもしれない。

最近では、保険診療制度の限界を感じ、若手医師を中心に自由診療へとシフトする動きが増えている。もちろん、患者の生命を守ることをなぞりにし、権利主張ばかりをするのは医師として論外だ。しかし、コスパやタイパを重視するZ世代の医師たちを一方向的に非難するのも筋違いな気がする。

むしろ、彼らの選択は、制度そのものの問題を浮き彫りにしているのではないか。働き手に過剰な負担を強い、自己犠牲を前提とした現行の仕組みが根本的な問題だとすれば、それを見直すことこそが本当に必要な議論ではないかと思う。

日本の社会保障制度が設計された時代は、人口が増加し、高齢化の進行も緩やかだった。若い労働力が社会を支える基盤として機能しており、医療を含む社会保障制度はその上に成り立っていた。しかし、日本の人口は2008年を境に減少し、2025年は「団塊世代」の約800万人全員が後期高齢者となり、国民の約5人に1人が高齢者という超高齢化社会に突入する。その結果、社会保障、主に医療、介護、年金といった分野は限界に直面している。

政治による医療制度改革は、過去にもたびたび議論されてきたが、抜本的な答えにはたどりつけていない。その背景には、医療費負担増への国民の反発、財源不足、既得権益による抵抗、制度の複雑さと透明性の欠如などがある。2024年の自民党総裁選挙では、9人も候補者がいながら、社会保障・医療政策にほとんど誰も言及しなかった。このような重要なテーマが政策議論の中心から外れている現状は違和感しかない。

識者の眼

No.5273 2025. 5. 17 日本医事新報 65

会 員 著 書

仁泉会の先生方へ
Jmedmookのご紹介

文責 / 井尻慎一郎（学 31 期）

私が執筆した、日本医事新報社の隔月刊、Jmedmook 第97号「プライマリ・ケア医のための腰痛診療—ついでに腰も診てほしい—」152頁、4,180円（税込）が2025年4月25日に発売されました。

アマゾンなどで購入可能です。



<https://www.amazon.co.jp/プライマリ・ケア医のための腰痛診療-「ついでに腰も診てほしい」と言われたら-jmedmook-97-井尻慎一郎>

腰痛の診察法などは QR コードで動画も見ることができます。

各科の先生方にお役に立つ部分があると思いますので、よろしく願いいたします。

＜アマゾンの解説から＞

◆ 整形外科以外の一般外来やクリニック等でも診る機会の多い腰痛について、知っておきたい知識を様々な角度からわかりやすく解説。

◆ アップデートされた腰痛に関する知見から鎮痛薬の考え方・使い方、患者に指導する体操などすぐに役立つ実践的な内容に加え、実際の診察法の動画も収載しています。

◆ 労災で一番多い原因・疾患でもある腰痛。本書には腰痛対策のための具体的な職場の改善策など、産業医必読の内容も盛り込まれています。

◆ 患者としても長年腰痛と付き合い、2度の手術も受けている著者ならではの視点で贈る本書は、腰痛の診療に携わるすべての先生に役立つ一冊です。

目次

- 第1章 腰痛の考え方のパラダイムシフト集
コラム 怪我をしたら、冷やす？ 温める？
コラム 筆者のおすすめ体操—いつでもどこでも気楽に適当に
コラム 腰痛体操・少し上級編
- 第2章 腰痛や痛みに関する tips 集—患者に聞かれたときに説明しやすいように
コラム リハビリテーションとは？
- 第3章 腰痛の基礎知識
コラム 湿布の歴史
- 第4章 見逃してはならない危険な腰痛— red flags に注意
コラム 痛みには閾値がある
- 第5章 筆者の腰痛の考え方と治療法
コラム 湿布でかぶれるのはなぜ？
- 第6章 腰痛の診察法—問診と診察の重要性
コラム 湿布が原因に？「アスピリン喘息」
- 第7章 下肢末梢神経障害の鑑別診断とそのコツ
コラム 冷湿布と温湿布の違い
- 第8章 画像診断
コラム 「笑い」は痛みも和らげる？
- 第9章 整形外科的鎮痛薬の考え方・使い方
コラム マッサージや指圧の適正頻度
- 第10章 代表的な腰痛疾患・たまにしかないが知っておくべき疾患
コラム ぎっくり腰は予防できる
- 第11章 腰痛と労働
コラム 寒くなると、痛みがひどくなる？—気象病
- 第12章 産業医が知っておくべき腰痛の考え方と対応法、そして専門医に紹介したほうがよいとき

付録 私の腰痛35年史 整形外科医が腰の手術を受けたら～2回の手術の体験談

会 員 著 書

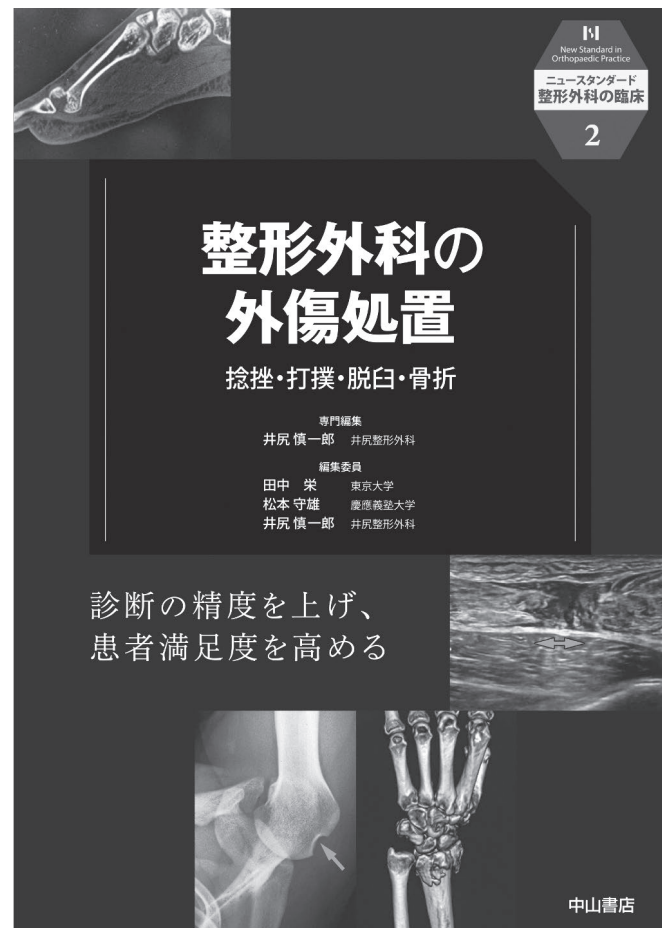
仁泉会の先生方へ
全集のご紹介

文責 / 井尻慎一郎（学 31 期）

このたび、中山書店から「ニュースタンド整形外科の臨床 全11巻」の第2巻「整形外科の外傷処置—捻挫・打撲・脱臼・骨折」が発刊されました。

<https://www.nakayamashoten.jp/sample/pdf/978-4-521-75092-7.pdf>

https://www.nakayamashoten.jp/series/ortho_new_std/



今回の第2巻は整形外科的外傷です。

従来外傷に関する書籍は、骨折の解説に重点が置かれた成書が多かったと思います。本書では開業整形外科外来でよくある、捻挫や打撲、脱臼などに関してもそれぞれの専門科に解説をしていただいています。

整形外科医だけでなくプライマリケアをされている先生方にもお役に立てると思っています。

ぜひ第2巻をご覧になっていただき、ご指導ご批判をいただけたら幸いです。

このシリーズでは、大学病院や基幹病院だけでなく、一般中小病院や開業医に受診するような日常でよくある疾患も解説されています。その意味で総編集者として、東大整形外科 田中栄教授と慶応大整形外科 松本守雄教授に加えて、整形外科開業医の私も選ばれています。さらに私は第1巻から第3巻までの責任編集者になっています。

至らぬ点は多々あると思いますが、本書が大阪医科薬科大学仁泉会の先生方の診療に少しでもお役に立てれば幸甚に思います。



会 員 著 書

学校でグループ・アプローチを 活用する手引き

—スクールカウンセラー・教職員のための
メソッド(BL子どもの心と学校臨床10)
(ブックレット：子どもの心と学校臨床10)—

共同執筆 高 富栄先生（学47期）



Amazon リンク



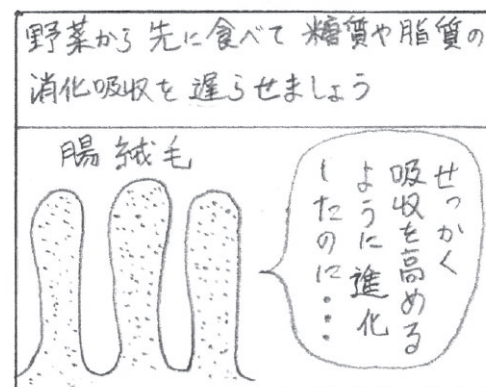
まんが 第74回

桂 ぼん 太郎 内閣（学31期）

裏金



ざんねんな進化



人体の不思議



開業しました!

岩崎善毅先生

昭和61年(1986年)卒(学35期)
在学中の所属学部／軽音楽部

自己紹介をお願いします

私は当時父親が小児科医として勤務していた住之江区の大阪市立住吉市民病院で誕生しました。東住吉区の長居で育ち、桃山学院高校から大阪医科大学に進学し、1986年に卒業しました。卒業と同時に



東京都のがん診療連携拠点病院である都立駒込病院で臨床研修を行い、研修終了後に外科医として約30年間、同院にて消化器がん治療に従事しました。途中、同院の病理科でのEBVの胃がん発生に関する研究やニューヨークのスローン・ケタリングがんセンターへの留学を経験しました。また、JCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)のメンバーとしてスキルス胃がんの臨床試験のPIとして臨床研究をまとめ、論文化させていただきました。その後、2017年に葛飾区に新規開設したイムス東京葛飾総合病院の立ち上げに外科部長、副院長として参画しました。都内の総合病院の立ち上げという大きなプロジェクトの機会に恵まれたことは非常に貴重な経験でした。しかも開院からちょうど2年が経過した頃、COVID-19によるパンデミックが発生し、救急医療崩壊の寸前も体験しました。

ご開業のきっかけについて

60歳の定年を迎え、今までがん治療に関わり、多数のがん末期の患者さんの治療にあたってきた経験を活かして今後は緩和ケアを中心とした在宅医となることを決め、2021年より東京都荒川区で訪問診療に携わって来ました。今回、ご縁があり生まれ育った大阪で訪問診療クリニックを開業する機会に恵まれ、本年1月1日より「エール訪

問診療クリニック」を開院しました。屋号の由来は“豊かな生活(abundant Life)”の頭文字(AL)、エール(声援)を送るのエール、そして私の大好きなエールビール(エール酵母による上面発酵ビール)に因んだトリプル・ミーニングです。



エール訪問診療クリニック

AL HOME CARE CLINIC

クリニックの特色を教えてください

私自身が外科専門医であること、看護師長は都立駒込病院での手術室看護師経験があることから外科的な処置や看取りを含めたがん末期の手厚い緩和医療が可能です。この特色を活かしてクリニックのある平野区を中心に地域包括ケアシステム構築に向けた体制整備に微力ながら貢献したいと考えています。

学生時代は軽音楽部に所属し、キーボードを担当しておりました。卒業後はしばらく音楽活動から離れていましたが、趣味のシンセサイザー収集は細々と続けて今ではハモンドオルガンやメロトロンを始め100台近く of 楽



アナログシンセ



チキンジョージライブ

器を所有しています(プチ自慢です)。2017年からは学生時代から好きだったプログレッシブロックの名曲を元スクエアの仙波清彦さん、久米大作さん、ザバダックの小峰公子さん、鬼怒無月さん、バイオリンの高橋香織さんら一流のミュージシャンの方々と「アナログシンセ・プログレ祭り」と称して神戸のチキンジョージや東京目黒のブルースアレイで定期公演を開催しております。以前には軽音楽部の後輩の皆さんにもチキンジョージでのライブに遊びに来ていただきました。ぜひ、機会がございましたらこちらの方もどうぞ宜しくお願い致します。



ご勤務いただける先生の募集

本年1月1日より訪問診療クリニックを開業しましたが、お陰様で施設中心ではありますが100人近くの患者さんを現在診療しています。新しい訪問施設、居宅も増えてきており、今後益々需要が増えると思われます。そこでお手伝いいただける先生方を募集しております。訪問診療にご興味のある先生方はもちろん、ご経験がない先生方でもしっかりサポートさせていただきますのでお気軽にご連絡いただければと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。

エール訪問診療クリニック 院長
岩崎善毅

〒547-0016
大阪府大阪市平野区長吉長原1丁目1-43-303
ティアラ長吉
電話：06-7173-1918
FAX：06-7162-2925
iwanov@mac.com
(HPは現在制作中です)

追 悼

榎林 勇 放射線医学教室 名誉教授への御誄

文責／上杉康夫（学 34 期）

第三代榎林 勇大阪医科大学（現 大阪医科薬科大学）放射線医学教室（現 放射線診断学教室 放射線腫瘍学教室）名誉教授は令和六年十月二十一日にご逝去なされました。

先生を偲ぶ会は令和七年六月七日にホテルグランヴィア大阪二十階孔雀の間で第四代放射線医学教室鳴海善文名誉教授、初代放射線診断学教室大須賀慶悟教授、初代放射線腫瘍学教室二瓶圭二教授以下、同門会員一同により執り行われましてございます。

偲ぶ会での献じた誄の内容につき、紙面の関係上横書きに変更の上でお示いたします。

偲ぶ会では、誄の内容をPDF形式でインターネット上に掲載しURLをQRコードで表示し、誄を献詠いたす際に出席者がアクセスし、一同で献読をいたしましてございます。

縦書き原寸大の誄につきましては、PDFのURLとそれを掲載したQRコードをお示いたしますので、アクセスしていただき〔誄詞_配布.pdf〕をご覧いただければ幸甚でございます。



誄詞

https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/248271/c37ff35a21c3b694fecdbf5a2d40ddf5?frame_id=600876

PDFのパスワードは〔doumon2025〕でございます。

先生のことを今まで、ずっと身近に感じておりましたが、偲ぶ会からの帰宅途上みるみる遠くに感じられ、寂寥の深さは止まるところを知りません。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合 掌

令和七年七月一日

大阪医科薬科大学放射線診断学教室腫瘍学教室同門会幹事
市立貝塚病院顧問放射線治療科医員
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター放射線治療科 兼担
上杉康夫

しのびごと 誄詞

謹んで御霊に申し上げます
なぞご逝去なされたか 阡秋萬歳 百千万億劫の後までも拝顔かな
うものと愚考し 不才 不佞 非才の凡下の輩へのご指導を賜るものと
信じ 微動だに疑うことなく月日を過ごして参りました それが突然の訃報
に接しては 慟哭 余りあるものがございます あまりにも 早い 哀惜の 蓋音に
より 突然の 悲しみに覆いつくされましてございます
第参代 大阪 医科 大学 放射 線 医学 教室 教授 ご 就任 にあたり 教室
の本分として臨床医学の向上と医学研究の進歩とを祈念 実行 なされ
ました これは元禄時代の崎陽の丘の榎林流 外科 開祖 榎林鎮山 聖範
を始め 嘉永年間の亀甲の城のジェンナー式種痘啓蒙 榎林宗建 儀範など
清哲超凡を輩出なされた 杏林の伯 榎林家の家祖家宗 金枝玉葉が佩帯
なされた才幹にも卓越 傑出なされた御身の意比雲双のご能才による 御業と
愚察いたしております 爾來教授におわしますこと拾有捌年ただひたすらその実現
に御心を尽くしにられました
ご逝去の報をうけたまわ川流の哀痛は尽きず その御姿の温容は目の当たりに
あって深く心に刻まれております
御霊前にぬかずき涙すること 式佰貳拾日余 無常の時流れば はや偲ぶ
会を迎え 今ここに一同 ご真影の御前に飛り越しましてございます
大学教授ご就任なされ 御清通に あまた人士への寛仁大度の御心をもって
内外の朋輩のご指導をなされておられたことは感服のいたりでございました 今偲ぶ
会に あたり 同門内外の代表はもとより 同門軽輩一同 慕い かなしみを共に
いたしております
同門を ご指導なされること 参拾有伍年ひたすら同門の輩の幸福と安寧とを
祈念なされ 旁遠を共に歩まれた御姿は 永く小輩の心に存立することと存じ
あげます
ここに偲ぶ会を迎え 御霊を 祀り奉り 鎮め奉り ご冥福をお祈り申し上げ
ます
こよなく愛された山川草木に 空しく幽明を隔て 今を思い 昔を偲び 敬慕の
念は止まるところを知りません
誠に哀しみの極みでございます

令和六年陸月漆日

大阪医科薬科大学放射線診断学教室腫瘍学教室同門会幹事

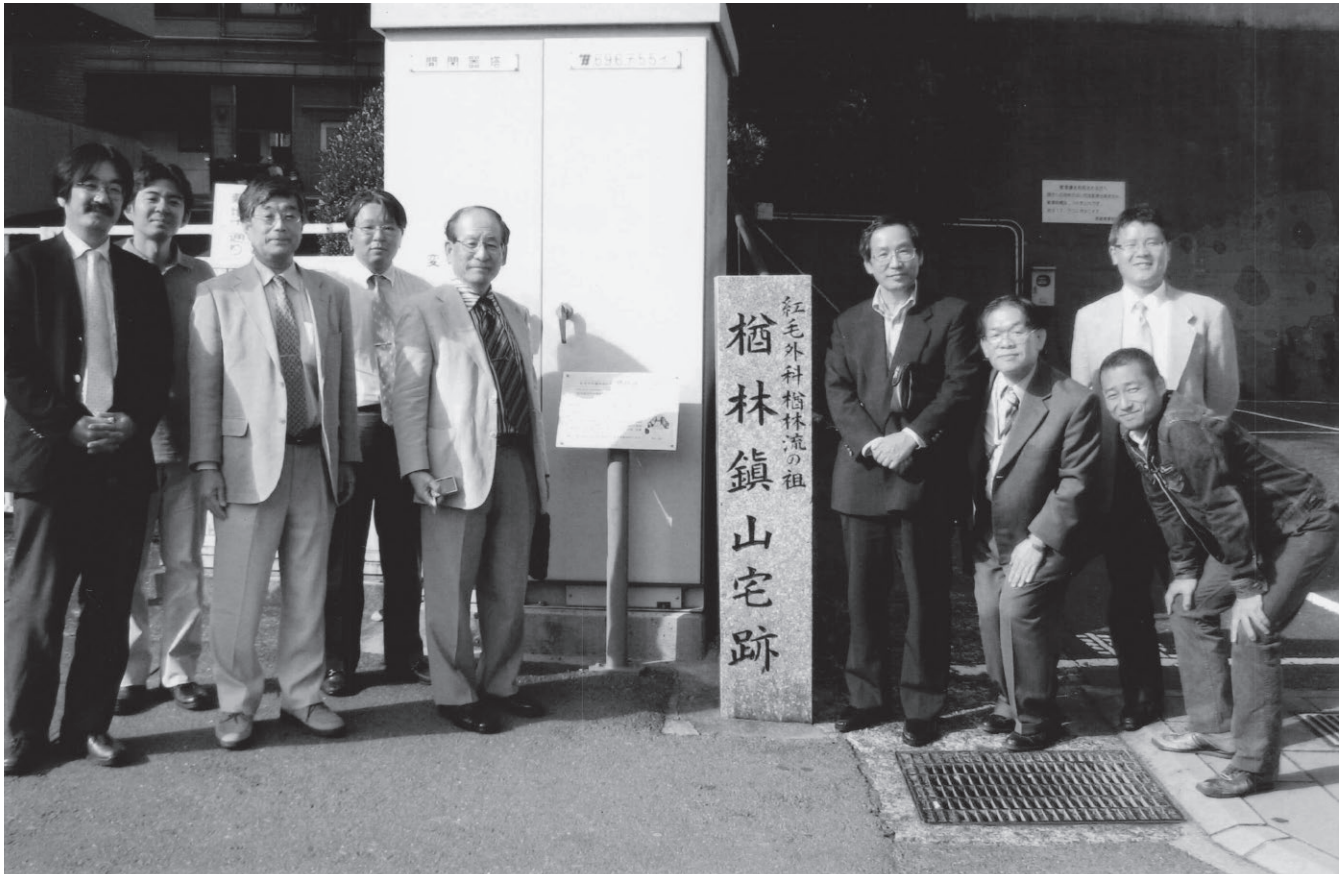
大阪医科薬科大学医師会監事

大阪医科大学放射線医学教室元准教授

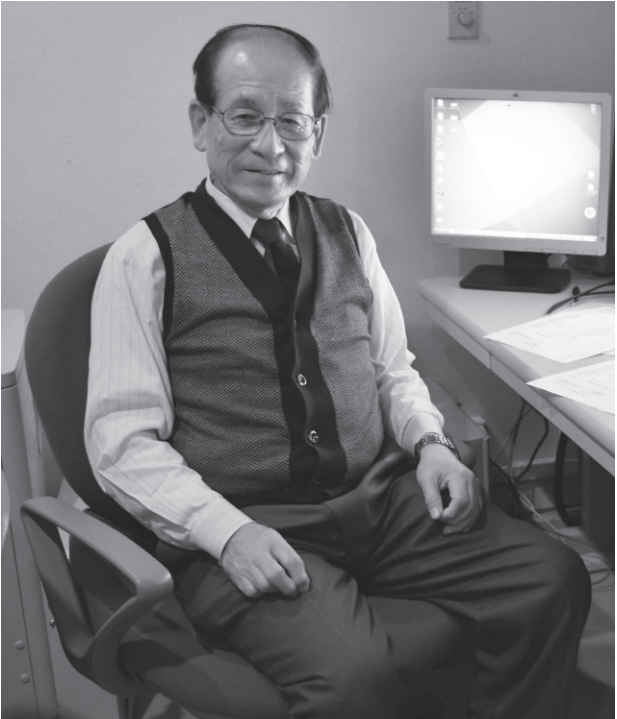
関西福祉科学大学保健医療学部前教授

市立貝塚病院顧問放射線治療科

上杉康夫



御家祖 紅毛外科榎林流開祖榎林鎮山宅を医局旅行で長崎に訪ねて



読影中の御姿



偲ぶ会での献誄

本部だより

会員訃報

次の会員が亡くられました。
慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

高医20期 大道信告先生

令和3年4月8日慢性心不全の為ご逝去（94歳）。
昭和26年卒。
母校卒業後、大阪市都島区にて大道医院をご開業されました。
ご遺族 長男 博士様

学部4期 金田宣雄先生

令和7年3月20日ご逝去（94歳）。
昭和30年卒。
母校卒業後、長野県飯田市にて内科をご開業されました。
ご遺族 長男 和彦様

学部13期 石田丈雄先生

令和7年3月22日急性呼吸不全にてご逝去（86歳）。
昭和39年卒。
母校卒業後、三木市にてご開業されておられました。
ご遺族 妻 陽子様

学部14期 有澤 基先生

令和7年3月16日誤嚥性肺炎の為ご逝去（88歳）。
昭和40年卒。
卒業後、三重県松坂市の病院にて約1年間研修医として勤務された後、県立尼崎病院で勤務され後藤先生の下で研鑽を積まれました。その後、昭和51年に伊丹で有澤眼科をご開業され、2019年の3月の閉院まで約40年間、地域医療に尽力されました。「伊丹を愛しておりました。」との奥様のお言葉です。
ご遺族 妻 恒子様

学部14期 上原従正先生

令和7年3月24日ご逝去（84歳）。
昭和40年卒。
母校卒業後、京都府向日市にて上原医院をご開業され

ました。
ご遺族 妻 栄子様

学部16期 宮崎治男先生

令和7年3月30日肺炎にてご逝去（84歳）。
昭和42年卒。
母校卒業後、第一外科にご入局され、昭和49年には助手をお務めになられました。昭和55年からは大阪府済生会吹田病院の外科部長として勤務され、平成8年には副院長に就任されました、診療に従事される傍ら松風園の療育園の園長をお務めになっておられました。平成22年から市立ひらかた病院検診センターに勤務されておられました。
ご遺族 妻 郁子様

学部22期 森本英夫先生

令和7年1月23日脳出血・誤嚥性肺炎の為ご逝去(77歳)。
母校卒業後、胸部外科に入局し、武内敦郎教授の指導の下、研修を受けられました。北野病院、半田病院、兵田病院、内田病院、蘇生会病院、枚方市民病院、南大阪病院での勤務を経て平成5年7月にご開院されました。令和5年1月31日に閉院されるまで、長年にわたり乙訓地区の開業医5名の先生方でドクターファイブのグループを作り地域の医療活動を支えておられました。
ご遺族 妻 千明様



本部だより

理事会開催報告

令和6年度第6回理事会報告

日時：令和7年3月15日（土）
午後3時～午後4時20分
場所：母校新講義実習棟 4階 会議室

【報告事項】

- 物故者12名
- 薬学部同窓会新年会開催について
- 支部会開催報告
東住吉・平野支部総会
岡山県支部総会
- 令和6年度卒業式について
- 医師国家試験合格状況について
- 令和7年度の支部会出席依頼について

【協議事項】

- 議事録署名者の件
理事長及び出席監事 可決承認
- 令和7年度事業計画（案）の件
可決承認
- 令和7年度予算（案）の件
可決承認
- 次期役員候補者の件
可決承認
- 総会運営の件
可決承認
- 次回会議の件
令和7年5月17日 午後3時

令和7年度第1回理事会報告

日時：令和7年5月17日（土）
午後3時～午後4時30分
場所：母校新講義実習棟 4階 会議室

【報告事項】

- 物故者17名
- 大阪府連支部長会及び学術講演会
- ホームカミングデー開催延期について
- 令和7年度入学式について

【協議事項】

- 議事録署名者の件
理事長及び出席監事 可決承認
- 令和6年度収支決算（案）及び監査報告の件
可決承認
- 令和7年度収支予算（案）修正の件
可決承認
- 次期役員候補者の件
可決承認
- 総会運営の件
可決承認
- 入学時の会費収納方法の件
継続審議
- 次回会議の件
令和7年5月25日 午後2時

令和7年度第2回理事会開催報告

日時：令和7年5月25日（日）
午後2時～2時30分
場所：ANAクラウンプラザホテル神戸
9階 会議室

【報告事項】

- 評議員会出席者報告
- 総会出席者報告

【協議事項】

- 議事録署名者
理事長及び出席監事 可決承認
- 総会運営の件
担当確認 可決承認
- 次回会議の件
総会終了後、次期役員協議にて決定
可決承認

寺村和久先生(学37期)がFM京都αステーションに出演されます

寺村和久先生がFM京都 α ステーション Radiant morning (土曜日)に、5月24日「鉄欠乏性貧血」、6月28日「肺高血圧症」、7月26日「サプリメント」、8月23日「サプリメント」の話で出演されます。いずれも9時から約10分間。
DJは、しもぐち☆雅充さん。



編集部より

会費納入のお願い

年会費

令和7年度 10,000円

令和6年度 10,000円

令和5年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。
ご投稿お待ちしております。

●56巻5号(令和7年9月1日発行)

締切 令和7年7月末日

●56巻6号(令和7年11月1日発行)

締切 令和7年9月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町2-7

E-mail: jimu@jinsenkai.net FAX:072-682-6636

編集後記

今回の仁泉会ニュースには各支部会、同窓会の模様を多くご寄稿いただきました。どれも同窓ならではの気の置けない様子がうかがわれ、やはり良いものだと感じられます。大阪の港区・大正区合同懇談会の記事もありますが、地域の大小はあるでしょうが同窓の少ない地区では有効な方策ではないでしょうか。また、在校生が医学生理学クイズ日本大会2025を本学で担当開催した報告がなされています。外国からの参加もあり、すでにグローバルな場を経験しているようで本当に頼もしい限りです。

さて、仁泉会では学部27期の上野豊先生があらたに理事長に就任されました。前任の安藤先生と同様、同窓会への熱い思いをお持ちの先生です。同窓諸氏もその熱い思いを汲んで仁泉会発展にご支援をいただければ幸いです。

小筆が編集後記を担当するのは今回が最後です。拙文をお読みくださった先生方に感謝申し上げます。これからも仁泉会ニュースをよろしくお願い申し上げます。

(治)

大阪医科大学 創立100周年 記念事業

数十年先の未来医療へ

大阪医科薬科大学病院 新本館建築プロジェクト

Super Smart Hospital

スマート医療を推進する大学病院

「バイオフィリア」という概念を取り入れ、自然と触れ合うことで健康や幸せを得られる空間を実現。

AIやロボットなど先端技術を活用し、効率的で「安全・安心な高度医療」を提供。

最先端の医療技術や高度な多職種連携の学びにより次世代を担う「優れた医療人を育成」。



2027年全容完成予定

2025年B棟完成

2022年A棟完成



Since 1927

1960年病院1号館完成



募集要項

募金目的▶大学病院新本館建築に係る資金、学生支援体制の充実

募金目標▶10億円

募集期間▶～2027年3月

募金単位▶個人：1口1万円、法人：1口10万円

顕彰▶個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします

特典▶個人：10口以上、法人：5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料受診券を進呈します。

申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。



大阪医科薬科大学基金

大阪医科薬科大学基金は、皆様からいただいた募金を積み立てて資金運用することによりさらに増やしていくもので、基金の拡充は、長期間にわたる「教育・研究活動」「良質な医療の提供」の強化に繋がります。

募集要項

募金単位▶個人：1口1万円 法人：1口10万円

申込方法▶学校法人大阪医科薬科大学寄付WEBサイトよりお申し込みいただくか、募金推進本部迄ご連絡ください。

【お問い合わせ先】募金推進本部 072-684-7243

【税制上の優遇措置】学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人です。大阪医科薬科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。



学校法人大阪医科薬科大学 募金推進本部 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
OMPU Tel: 072-684-7243 Mail: kikin@ompu.ac.jp Web: https://www.omp.ac.jp/donation/index.html

至誠仁術を備える人材の育成をめざして

ご支援のお願い